



発行所 〒107-0052 東京都港区赤坂7丁目5番38号 公益社団法人 日本PTA全国協議会 佐藤秀行 電話 03(5545)7151 FAX 03(5545)7152 ホームページアドレス http://www.nippon-pta.or.jp/

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通じて、我が国における社会教育及び家庭教育の充実を努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもの健全育成と福祉の増進を図り、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、社会の発展に寄与する。

主な内容

- 1面 ○令和元年度定時総会
2面 ○協議会連絡会 ○協議会代表者会 ○協議会懇談会
3面 ○民間放送連盟との懇談会
4面 ○第41回全国小・中学校PTA広報紙コンクール ○いじめ防止支援プロジェクト
5面 ○令和元年度楽しい子育て全国キャンペーン三行詩優秀作品決定
6・7面 ○第67回日本PTA全国研究大会 兵庫大会
8面 ○国内研修事業 in渡嘉敷村

令和元年度定時総会

新しい時代を迎え 新体制が始動

(公社)日本PTA全国協議会は6月21日(金)、令和元年度定時総会を国立オリンピック記念青少年総合センターで開催しました。総会には、正会員64名全員が出席。平成30年度事業報告、平成30年度収支決算、会費規定の改正のほか、令和元年度理事および監事の選任の4議案について審議を行い、全議案が承認されました。その後、令和元年度の総会宣言が決議され、本総会をもって退任される協議会代表者、役員に感謝状の贈呈がされました。

皆さんと共に課題解決を

あいさ 公益社団法人 日本PTA全国協議会 佐藤 秀行 会長



平成27年度より茨城県PTA連絡協議会の会長として3年間、日本PTAの事業に参加し、平成30年度は参与として関わり、多くのことを学び、合わせて全国の協議会が持っている知恵や行動力を目の当たりにしてきました。

平成25年から日本PTAは公益社団法人格を取得し昨年の平成30年までの5年間で、大きく運営の仕方、定款や施

行細則の変更などが多く行われてきました。それに伴い物凄スピードでいろいろなことが変わり、良いことも沢山生まれましたが反面、変化が目まぐるしく、わかりづらいような部分もあったのではないかと感じています。私も1年目のときには、そのような感想を持ちながら総会に参加をしていただくことを思い出します。



総会では4議案を協議



きが出てきたらとても良いと思っています。今は様々な課題が山積しています。課題はいつの時代にもあることではあります。今私たちが取り組まなければならないこと、何ともしやらないければならないことは、皆さんと一緒に取り組まないと意味がないと考えます。日本PTAの役員が考えた、指示がきた、依頼がきたからというだけでではなく、そこに向けて皆さんと一丸となり取り組んでいきたい

と考えています。皆さんから日本PTAに上がってきたものを、全国に発信していく、そのような動きをしないと、危険な状況にある課題を解決することに繋がらないと考えます。逆にいうと、皆さんと力を合わせれば解決できるようなことが、将来的に解決できるということに繋がるのではないかと、そんな想いでいます。



会長という大役を受けるには力不足ではないかと自分では感じていますが、一人の保護者としてできることに取り組んでいきたいと考えています。

社会総掛かりでの教育必要に

祝辞 文部科学事務次官 藤原 誠氏



令和元年度、公益社団法人日本PTA全国協議会の定時総会の開催にあたり一言、挨拶申し上げます。貴協議会におかれては、日、エからPTA活動を通じ、学校・家庭・地域の架け橋として子どもたちの健全育成にご尽力いただいておりますことに、深く感謝

をします。年号が令和へと改められ新しい時代がはじまりました。これからの時代を生きる子どもたちは益々変化の激しい社会環境を歩んでいくこととなります。これからの時代に必要となる資質・能力をしっかりと育成するため、令和2年度からは新しい学習指導要領による教育が順次始まります。本年4月、新時代に対応した義務教育のあり方を含む「新しい時代の初等中等教育の在り方について」を中央教育審議会に諮問しました。

また、教育の質の向上のため、学校における働き方改革が必要で、東川前会長にもいただきましたが、中央教育審議会の答申を踏まえて取り組んでまいります。3月には保護者、地域の皆さまへの私どものメッセージを発売し、その中でも改めてPTAの皆さまへの期待を述べさせていただきます。早く日本PTA全国協議会

として「学校における働き方改革」への理解と協力のメッセージをまとめたことについて、大変心強く感じるとともに心より感謝申し上げます。子どもを取り巻く環境が多様化、複雑化する中、学校のみならず社会総掛かりでの教育を実現することが必要となっております。皆様におかれましては、PTA活動のリーダーとして家庭・地域と学校の連携・協働を牽引いただくことも、学校教育のよき理解者として今後ともご理解とお力添えをいただきますようお願いいたします。結びに公益社団法人日本PTA全国協議会の益々のご発展と皆様の一層のご活躍をご祈念申し上げ、私の挨拶といたします。

Table with columns: 令和元年度 新役員 理事 監事 紹介. Lists names and titles of new board members and supervisors.

令和元年度 定時総会 宣言・決議

宣言

社会教育関係団体である公益社団法人日本PTA全国協議会は、保護者と教職員で構成する責任ある全国組織として、国が行うあらゆる教育改革、子どもたちを取り巻く環境の整備に関する施策等に積極的に意見・協議するとともに、然るべき方向性を示し、教育力の向上及び子どもたちの健全育成に寄与してきた。我々はこれからも、教育関係団体や関係諸機関等と連携を密にし、国全体の教育環境をよりよくすることを、ともに検証・議論することによって、子どもたちの生きる力を醸成し、誇りをもち、夢をもち、将来に希望をもてる社会づくりに貢献していくのが果たすべき役割であり、責務でもある。

また、公益法人としてガバナンスに関するルールを忠実に運営・執行し、積極的に情報を発信することによって、社会教育及び家庭教育の充実を努めるとともに、これまでに以上に家庭・学校・地域が連携協力し、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、地域の教育力の向上ならびにあらゆる環境浄化を行い、社会の発展に寄与することが必要である。令和元年の新たな時代を期に、公益社団法人日本PTA全国協議会としての役割と責任を自覚し、組織の総力を結集し、次の決議の実現に全力で取り組むことを宣言する。

決議

令和元年度定時総会における宣言に基づき、具体的目標として、次の事項を決議する。
一、子どもたちの心身ともに健全な成長を図るため、社会の変化に対応した教育改革等に主体的に取り組み、

協議会連絡会

(第2回PTAリーダーセミナー)

令和元年7月22日(国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室)に於いて、地方協議会代表者及び事務局長で構成する協議会連絡会(第2回PTAリーダーセミナー)が開催されました。

PTAリーダーセミナーとしては最初に、独立行政法人国立青少年教育振興機構の鈴木みゆき理事長から「家庭教育について」と題する講演があり、続いて筑波大学人間系教育領域の浜田博文教授から「いっただい学校はなんのためにあるのだろうか?」と題する講演があり、最後に文部科学省総合政策局地域学習推進課の下田力課長補佐から「社会教育について」と題する講演がありました。

次に、第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会についての説明があり、続いて令和元年度事業説明(日程説明)等が行われました。



協議会連絡会の様子

令和元年六月二十一日
公益社団法人日本PTA全国協議会

協議会代表者会

〈講演〉

1. 「家庭教育について」
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
理事長 博士(医学)
鈴木 みゆき様

2. 「いっただい学校は何のためにあるのだろうか?」
筑波大学 人間系教育領域
教授 浜田 博文様

3. 「社会教育について」
文部科学省 総合政策局
地域学習推進課
課長補佐 下田 力様

〈説明〉
1. 第67回日本PTA全国大会兵庫大会について
2. 令和元年度事業説明(日程説明)

協議会代表者会

令和元年7月23日(国立オリンピック記念青少年総合センター国際会議室)に於いて、地方協議会代表者で構成する協議会代表者会が開催されました。

協議会代表者会に於いては、会長挨拶の後、第69回全国研究大会北九州大会の委任状が会長から曾我部専務理事へ手交されました。

また、各委員会からの報告は概ね次のとおりです。
調査研究委員会からは、教育に関する保護者の意識調査の実施とPTAの入退会問題についての情報収集等を行うことに関する報告がありました。

社会教育推進委員会からは、PTAリーダー研修会の必要性の検討、PTAの意義の再確認、地方交付税等の公金の使われ方についての情報収集を行うことに関する報告がありました。

家庭教育支援委員会からは、学校における働き方改革に対する支援、児童生徒の安心安全の検討、主権者教育の学習を行うことに関する報告がありました。

いじめ防止対策委員会からは、家庭でできるいじめ防止ハンドブックの活用等の検討等を行うことに関する報告がありました。

最初にいじめ防止対策委員会から藤倉会長と登壇者でディスカッションが行われ、質疑応答の後、研修会が終了しました。

休息をはさんで、最後に藤倉会長と登壇者でディスカッションが行われ、質疑応答の後、研修会が終了しました。

「子ども達を未来へ幸せに送り届けるためにPTA会長が知っておくべき大切な事」



田中 勉様



下田 力様



浜田 博文様



鈴木 みゆき様



協議会代表者会の様子

協議会懇談会(研修会)

1. 調査研究委員会より報告
2. 社会教育推進委員会より報告

3. 家庭教育支援委員会より報告
4. いじめ防止対策委員会より報告



中 広行様



榎木 奨悟様

最初に、公益社団法人全国学習塾協会の安藤大作会長から「子ども達を未来へ幸せに送り届けるためにPTA会長が知っておくべき大切な事」と題する講演があり、続いて、毎年日本PTAの国内研修事業の指導業務を依頼している、独立行政法人国立青少年教育振興機構国立阿蘇青少年交流の家の北見靖直次長から「自己肯定感を育むノウハウ(地域(大人)が変わる、子どもが変わる)」と題する講演がありました。



安藤 大作様



北見 靖直様

休息をはさんで、最後に藤倉会長と登壇者でディスカッションが行われ、質疑応答の後、研修会が終了しました。

公益社団法人全国学習塾協会会長、公益社団法人日本PTA全国協議会元副会長 安藤 大作様

「自己肯定感を育むノウハウ(地域(大人)が変わる、子どもが変わる)」
独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立阿蘇青少年交流の家 次長 北見 靖直様



ディスカッションの様子



協議会懇談会の様子

会長、公益社団法人日本PTA全国協議会元副会長
 安藤 大作様
 独立行政法人国立青少年教育振興機構、国立阿蘇青年交流の家次長
 北見 靖直様
 コーディネーター
 公益社団法人日本PTA全国協議会会長
 佐藤 秀行氏

民間放送連盟との懇談会開催される 事件報道 子どもへの取材など要望

令和元年9月18日(水)日本PTA全国協議会2階会議室に於いて、公益財団法人日本PTA全国協議会と一般社団法人日本民間放送連盟(民放連)の懇談会が開催されました。日本PTAからは佐藤会長及び副会長ら9名が出席、民放連からは「放送の自主・自立に関する特別部会」の武田部会長(テレビ東京参与)及び委員ら14名が出席しました。

最初に民放連から、児童・青少年にむけた各局の番組編成や出前授業をはじめとする取り組みについて紹介がありました。日本PTAからは、子どもとメディア調査報告書及び全国大会についての説明をいたしました。引き続き意見交換が行われました。日本PTAからの「出前授業について関東に集中しているが、地方でも実施して欲しい」と

の質問に対し、在京のテレビ局から、現状は自社の放送エリア内で実施しているとの説明があり、その上で「今後は系列局とも情報共有し、地方での授業も検討したい。」との回答がありました。

また、日本PTAから、事件報道について現地に聞くと、学校や教育委員会への過剰取材もあり、メディアスクラム対応を求める意見をしたの対

し、民放連からは「子どもたちへの取材には十分留意して取り組んでいるが、社内でも共有し今後も配慮して行きたい。」との回答がありました。

このほか、日本PTAからは、「民放連賞の青少年向け番組の審査員を抜くし、児童・青少年に見てほしい番組が数多くあることを再認識したが、深夜帯の番組もあり残念」との意見を述べました。

要 望 書

一、「子どもたちの視聴を意識した番組制作」について

本会が実施しているアンケート調査において、保護者が子どもたちに「テレビを見せたくない理由」として明らかになった『いじめや偏見を助長する恐れのある場面、残酷なシーン等』については、十分に審査・検討のもと、コンテンツの作成・放映にあたって下さい。また、テレビの向こう側では子どもたちが番組を視聴しているということを認識いただき、その影響力を十分に考慮した放送業務に取り組んでいただくと共に、今後とも私たちが推進する有害環境の浄化、犯罪の低年齢化の防止、教育環境整備の観点から、子どもたちの教育上好ましくない表現や制作手法がないよう十分ご留意いただくよう要望致します。

一、「子どもたちへの取材活動及び報道の公平性」について

近年、子どもたちが被害者もしくは加害者となる重大事件の発生が相次いでいます。こうした中で特に社会的関心が高いニュースソースの場合、民間放送各社による子どもたちへの過剰な取材活動や、子どもたちの住む地域や学校の環境等について誤解を招く恐れのある報道がなされていることがあるとの報告を受けています。過度な取材活動が子どもたちの心身に与える影響や、テレビ報道の社会的な影響力についても十分ご考慮いただき、報道倫理に基づき紳士的な取材活動を行い、かつ報道の公平性を保っていただくと共に、「教育的配慮」という観点からも、子どもたちの人権を無視した集団的過剰取材、いわゆる『メディアスクラム』行為や過度な取材方法は厳に慎んでいただくことを重ね重ね要望致します。

一、「本会との連携・協力」について

わが国最大の社会教育関係団体として、本会は様々な教育施策等に良識的な提言をする活動を行っています。また、PTA活動の本質をより広く伝えるため、近年は様々な書籍の発刊等も行っています。さらに、全国各地のPTAでは、先進的な取り組みを行っているPTAも多数あります。しかしながら、私どもの発信だけでは、PTAの存在価値や意義を十分に世間にご理解いただくことは難しい現状があります。近年、情報番組等ではPTAに関する話題について取り上げていただいていることもありますが、内容や出演者の発言については是非、公平・公正な視点をもって視聴者に伝えていただくと共に、私たちの前向きな活動についても積極的に取り上げていただく等、PTAに対する正しい理解に向けて、本会との連携・協力を積極的に推進していただくことを要望致します。

【付言】

本会は、テレビのみならず児童生徒に多大な影響を及ぼすインターネット等広範囲のメディアに対し、今後も重大な関心を持って臨み、子どもたちの健全育成の観点から好ましくない番組コンテンツ等について、関係諸団体と共に、内容改善のための世論形成に与してまいります。

同時に本会は、全国の民間放送各社が推奨される『青少年に見てもらいたい番組』の情報発信等を積極的に行う他、子どもたちの健全育成において民間放送の果たしている役割を広く会員に周知する活動を進める等、民間放送各社との連携・協力を積極的に推進してまいります。

民放連出席者

団体名	役職	氏名
テレビ東京	参与	武田 康孝
TBSテレビ	編成局担当局長	足立 信一郎
TBSテレビ	制作局制作二部部長	山本 一雄
日本テレビ放送網	コンプライアンス推進室長	横山 武信
テレビ朝日	総合編成局放送基準担当局長	山本 隆司
テレビ朝日	広報局お客さまフロント部長	田中 義樹
フジテレビジョン	編成制作局マネジメントセンター局長	金田 耕司
フジテレビジョン	編成制作局編成部部長職 広報戦略チーフ ドラマ調整チーフ	佐藤 未郷
テレビ東京	総合編成局局長兼視聴者センター部長	前田 琢
テレビ東京	総合編成局編成部	久岡 佳樹
中京テレビ放送	内部統制室長兼放送審議室長兼法務室長	飯田 勝人
毎日放送	コンプライアンス室長	高山 裕之
朝日放送テレビ	コンプライアンス局局長補佐	安田 武史
関西テレビ放送	CSR推進局長	前田 ひとみ



民放連との懇談の様子(日本PTA全国協議会)



民放連との懇談の様子(民放連)

第41回 全国小・中学校PTA広報紙コンクール入賞校一覧

Table with 3 columns: Award Category, Elementary School PTA, and Middle School PTA. Lists winning schools across various prefectures like Hokkaido, Kanagawa, and others.

第41回全国小・中学校PTA広報紙コンクール

文部科学大臣賞に 北海道 帯広市立啓北小学校PTA 福島県 福島市立飯野中学校父母と教師の会

小学校22校・中学校20校が入賞 11月に表彰式

第41回全国小・中学校PTA広報紙コンクールは、全国各地から4865校(小学校3261校、中学校1604校)という多数の応募をいただきました。各地方協議会での第1次審査で選ばれた593校(小学校366校、中学校227校)の作品について、7月29日(月)の第2次審査、8月1日(木)の第3次審査を経て、8月8日(木)に文部科学省・日本教育新聞社・教育家庭新聞社・日本PTA全国協議会の審査委員で最終審査を行い、別掲のとおり42校(小学校22校、中学校20校)が文部科学大臣賞・日本PTA全国協議会会長賞・日本教育新聞社社長賞・教育家庭新聞社社長賞・他各賞に決定しました。

応募された広報紙からは、PTAの時々の活動状況、学校での教育活動・行事や出来事、教員紹介、関係機関や地域社会への情報提供など、身近で貴重な情報を掲載し、保護者・地域の方・教員へ発信し、交流と情報提供の場として活性化のツールとなっていくことを改めて確認することができました。

このような素晴らしい広報紙の数々から選考された優秀作品については「優秀広報紙作品集」として出版されますので、読みたくなる広報紙の作り方や、その地域ならではの特色をそなえた広報紙の作成に際しての参考資料としてご利用いただけます。なお、優秀作品へ入賞した団体には、11月15日(金)に挙行される年次表彰式に併せて広報紙コンクール表彰団体として表彰されます。



二次審査の様子



三次審査の様子



最終審査の様子

第41回 全国小・中学校PTA広報紙コンクール審査委員

Table listing the review committee members, divided into 'Third Round Review' and 'Final Review' sections, with names and roles.

(敬称略)



指定討論に臨む佐藤会長

令和元年8月9日(金)鳴門教育大学 講義棟2階 B208教室に於いて、フォーラム「いじめ防止対策推進法のこれまでとこれから」と題して、BP(いじめ防止支援)プロジェクト令和元年度第1回徳島大会が、鳴門教育大学の主催で開催されました。公益社団法人日本PTA全

いじめ防止支援プロジェクトに参加 令和元年度 第1回徳島大会

国協議会は、宮城教育大学、上越教育大学、鳴門教育大学、福岡教育大学の4つの大学で構成するBP(いじめ防止支援)プロジェクトに協力団体として参加しており、佐藤会長は指定討論やパネリストとして登壇しました。

【指定討論】 「いじめ防止対策」日本PTAの取組について」 公益社団法人日本PTA全

共催：宮城教育大学、上越教育大学、福岡教育大学、政策研究所、日本生徒指導学会、公益社団法人日本PTA全国協議会、徳島県、徳島県教育委員会、徳島県警察本部、NHK徳島放送局、四国放送株式会社、朝日新聞徳島総局、毎日新聞徳島支局、読売新聞徳島支局、産経新聞社、共同通信社徳島支局、時事通信社徳島支局、株式会社日本教育新聞社

後援：文部科学省、国立教育政策研究所、日本生徒指導学会、公益社団法人日本PTA全国協議会、徳島県、徳島県教育委員会、徳島県警察本部、NHK徳島放送局、四国放送株式会社、朝日新聞徳島総局、毎日新聞徳島支局、読売新聞徳島支局、産経新聞社、共同通信社徳島支局、時事通信社徳島支局、株式会社日本教育新聞社

国協議会会長 佐藤 秀行

令和元年度 三行詩コンクール最終審査委員

氏 名	所 属
青 沼 貴 子	漫画家
五十嵐 悠紀	明治大学 総合数理学部 先端メディアサイエンス学科 准教授
唐 沢 裕 之	文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 家庭教育支援室長
佐 藤 秀 行	公益社団法人日本PTA全国協議会会長
田 村 悟	厚生労働省 子ども家庭局 子育て支援課長
土 居 利 光	日本パンタ保護協会会長 首都大学東京客員教授 恩賜上野動物園園長
服 部 幸 應	早寝早起き朝ごはん全国協議会副会長 学校法人服部学園・服部栄養専門学校理事長・校長
弓削田 健介	放浪の合唱作曲家

楽しい子育てで全国キャンペーン 三行詩優秀作品決定

令和元年度「楽しい子育てで全国キャンペーン」家庭で話そう！我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ」に関する三行詩については、対象を小学生・中学生と一般（保護者・教職員等）とし、内容は「三行詩とは、三行程度の短文の意味合いであり、必ずしも三行である必要はなく、俳句のようなものでも構わない。」「家族の会話やコミュニケーションから育まれるきずなや家庭のルール、子どもたちの基本的な生活習慣づくりなどの家庭教育、一人一人の命のつながりや大切さをテーマとして短文で表現したものであること。」「家庭での日常の出来事や、学校や

地域でのエピソードをもとに、家族で話し合った上記テーマに沿った作品であること。」としてホームページ・地方協議会及び教育委員会等を通して小学校・中学校へ募集しました。全国から14万8192作品（小学生の部8万4681点、中学生の部4万9648点、一般の部1万3863点）の応募があり、各地方協議会での第1次審査を経た821作品（小学生の部291点、中学生の部264点、一般の部266点）及び私立・国立学校・PTA未所属公立学校



最終審査の様子

分178作品（小学生の部70点、中学生の部73点、一般の部35点）について、第2次審査を経て9月12日（木）に最終審査を行い、文部科学大臣賞・厚生労働大臣賞・「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞・公益社団法人日本PTA全国協議会会長賞・佳作の各賞が決定されました。

応募された作品からは、家庭内における感謝の気持や何気ない日常の場面の親子のコミュニケーションの様子など、家族の絆と信頼・日常の親子のあたたかい交流を表している作品にあふれていました。

小学生の部

文部科学大臣賞



和歌山県 和歌山市立野崎西小学校 6年 熊谷 大侃

厚生労働大臣賞



岩手県 奥州市立玉里小学校 4年 菅野 奏良

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞



新潟県 田上町立羽生田小学校 5年 長吉 風凛

公益社団法人日本PTA全国協議会会長賞



山口大学教育学部附属光小学校 3年 徳永 莉子

中学生の部

文部科学大臣賞



青森県 三沢市立第二中学校 3年 富田 美香

厚生労働大臣賞



神奈川県 平塚市立浜岳中学校 3年 千田 悠之介

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞



新潟県 魚沼市立小出中学校 3年 貝瀬 葵

公益社団法人日本PTA全国協議会会長賞



名古屋市長古屋市立津賀田中学校 2年 加藤 夏芽

一般の部

文部科学大臣賞



仙台市 堤 恵通子

厚生労働大臣賞



京都府 小林 結加

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会会長賞



埼玉県 坂巻 真規

公益社団法人日本PTA全国協議会会長賞



富山県 大岡 摩紀



第67回日本PTA全国研究大会
第45回日本PTA近畿ブロック研究大会
 令和元年 8月23日(金)～24日(土)

兵庫大会



熱気あふれる全体会 (ワールド記念ホール)



中村裕之・文部科学大臣政務官



小山智・復興庁統括官



井戸敏三・兵庫県知事



久元喜造・神戸市長

各界からの祝辞

第67回日本PTA全国研究大会兵庫大会が、「つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ～地域とともに育む力 兵庫から～」のテーマを掲げ、8月23・24日両日に開催されました。日本海から瀬戸内海、淡路島を介して太平洋へと続く日本の縮図と称される兵庫県に全国各地から8400人を超える方々にご参加いただき、多様化する教育課題の諸問題の解決に向け論議を深めることができました。

東日本大震災をはじめ、近年様々な自然災害により尊い「いのち」が失われました。また、社会の急激な変化により、子どもたちの自死やいじめ、虐待等「いのち」に係る事案が年々増加し深刻な社会問題になってきていることから阪神・淡路大震災で多くの「いのち」が犠牲になった経験と教訓から「いのち」がテーマに掲げられました。「いのち」を大切にすPTA活動や、「PTAのあり方」保護者の「あり方」が問われている令和元年という大きな節目の大会でもありました。

震災後、全国の皆様からいただいた支援に感謝し、お伝えするとともに本大会を通じて、次世代につなげていくことの大切さと討議いただいた様々な諸問題をさらに検証し、

つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ ～地域とともに育む力 兵庫から～

冒頭に既婚者でも子どもがいるわけでもない立場で講演を引き受けるのはどうかと困惑されたことを語り、それでも日々子どもの教育に熱心に取り組んでいる我々を励まし、少しでも前向きに取り組めるような話が出来ればと壇上に立たれた経緯を語られました。自身のいじめられた経験の話され、講演の途中から質疑応答が始まり、積極的な質問が多く、今後の子育て、親育てに考えさせられる内容でした。

今後の活動に活かしていただければ幸いです。初日は、県内各ブロック10会場で分科会が開催されました。各分科会の研究課題に基づき、基調講演、パネルディスカッション、地元ならではの実践発表があり熱い討議がされました。

2日目、神戸市内のワールド記念ホールでの全体会では、ご来賓の祝辞をいただき、メンタリストDaiGo氏の記念講演がありました。

第68回日本PTA全国研究大会
第76回日本PTA東海北陸ブロック研究大会

富山大会



開催予定日

令和2年 8月28日(金)
8月29日(土)

大会予定会場

全大会:富山市総合体育館
分科会:富山県内10会場

大会スローガン

キトキト みんなで とやまなび
 ～こころが今日も笑顔でありますように～



佐藤秀行会長



西家幸男実行委員長



次期開催地に大会旗引継



大会宣言 高田貴美彦氏




記念講演 メンタリスト DaiGo氏

各分科会内容

第1分科会 家庭教育

研究課題	今日の家庭教育が果たすべき役割
テーマ	次世代を担う子どもたちへの家庭教育 あーよかったな あなたがいて ～わたし大好き あなた大好き～
基調講演・ コーディネーター	仲島 正教 氏 教育サポーター

家庭教育は、すべての教育の出発点。家庭教育のあり方・家庭力の育み方をテーマにしたパネルディスカッション。基調講演者 仲島正教氏の保護者・教員両方の目線で語られた内容に、笑いあり、涙ありの講演内容で盛り上がりました。




仲島正教氏による基調講演

第2分科会 学校教育

研究課題	地域とともに育み次世代へ「つなぐ」学校教育 ～子どもたちのためにPTAが担う役割とは～
テーマ	これからの時代に必要な力を育む教育 ～豊かな学びと育ちを支える「協同的探究学習」～
基調講演・ 助言者	藤村 宣之 氏 東京大学大学院教育学研究科教授

加古川市で実践している「協同的探究学習」取り組みを通してPTAが担う役割や、学校教育の方向性について話し合われた。参加者からは、日ごろ聞けない内容で難しかったが、聞きごたえがありよかったとの感想もありました。




学校教育の方向性やPTAが担う役割について話し合った

第3分科会 地域連携

研究課題	地域で見守り育むPTA活動 ～伝え合う思いやりの心～
テーマ	子どもの未来を描くために ～子どもから大人まで歌で心の扉をあけよう～
基調講演・ パネリスト	谷本 賢一郎 氏 ミュージシャン・タレント

地域連携（PTCA活動）を考える、豊かな心を育む教育について話し合われました。西播磨では日々の生活が地域連携そのものであり、今後のPTA活動の参考にしたい話もありました。




谷本賢一郎氏による基調講演

第4分科会 人権教育

研究課題	子どもに係わる人権課題の解決とPTAの役割 ～家庭・学校・地域が力を合わせて～
テーマ	子どもたちを笑顔にする人権教育とPTAの役割 ～家庭・学校・地域が力を合わせて～
基調講演・ パネリスト	春川 政信 氏 三木市人権・同和教育協議会副会長

子どもたちを笑顔にする人権教育とPTAの役割をテーマに春川政信氏の基調講演に基づき、子どもの身近にある人権問題や人権擁護、私たちが学ぶべきことや子ども達に伝えるべきことなどについて、パネルディスカッションで話し合われました。



西脇市立西脇小学校オーケストラ部による息の合った演奏

第5分科会 広報活動

研究課題	効果的に広報活動を行うための工夫 ～PTA活動の魅力や楽しさを伝えよう～
テーマ	「歌の力を信じて～阪神・淡路大震災から24年」
基調講演・ パネリスト	臼井 真 氏 神戸市立高羽小学校主幹教諭

「歌の力を信じて～阪神・淡路大震災から24年」基調講演者臼井真氏の体験と、小学校などからの実践発表を通し、伝えていくことの重要性、PTA活動と広報の意義について協議されました。





臼井真氏による基調講演 真剣な討議が繰り広げられた会場の様子

第6分科会 防災教育

研究課題	いのちを守る防災教育 ～家庭・学校・地域 いま私たちに出来ること～
テーマ	いのちを守る防災教育 ～家庭・学校・地域 いま私たちに出来ること～
基調講演・ パネリスト	林 春男 氏 国立研究開発法人防災科学技術研究所理事長

いのちを守る防災教育について、身近なところで私たちに出来ることは何か、子どもを守ることは、最重要課題であり防災意識を高めるためにどういった教育が必要かについて討議されました。




いのちを守る防災教育について、身近なところで私たちに出来ることを話し合った

第7分科会 環境教育

研究課題	子どもと大人が、互いに学び合える環境教育の実践に向けて ～ともに学び、成長できるPTA～
テーマ	繋がる大切さと「気付き」 ～子どもと遊ぼう ふる里の再発見～
基調講演	中本 賢 氏 俳優

子どもと大人が互いに学び合える環境教育について協議されました。中本賢氏の繋がる大切さと「気付き」の基調講演や、実践発表から子どもと一緒に体験することの大切さについて考える分科会を展開しました。




子どもと大人が互いに学び合える環境教育について協議

第8分科会 健康安全

研究課題	規則正しい生活習慣を通して、 子どもたちの健やかな成長を考える
テーマ	早寝早起き朝ごはん ～生活習慣の重要性 家庭の役割 学校の役割～
基調講演・ パネリスト	陰山 英男 氏 陰山ラボ代表（教育クリエイター）

子どもたちの健やかな成長における、規則正しい生活習慣の重要性について、どのような行動をすればよいのか、自分自身の生活、家族、子どもたちの生活習慣について話し合われました。また、「早寝・早起き・朝ごはん」と子どもたちの健康と家庭・学校のありかたについてパネルディスカッションが行われました。




パネルディスカッションの様子

特別第1分科会 日本PTA全国協議会担当

研究課題	「いじめ」なんてかわこわい！ ～我が子を当事者にさせないために～
テーマ	いじめの未然防止、早期発見のために考える
基調講演・ コーディネーター	高橋 知己 氏 上越教育大学大学院教授

いじめの認知件数は増加傾向にあります。スマホやSNSの普及によりその構造が多様化。子どもを守るために未然に防ぐために保護者やPTAが出来ることは何か。高橋知己氏のいじめの未然防止、早期発見を考えるなどの基調講演を基に討議されました。




姫路市広瀬中学校コーラス部による合唱

特別第2分科会 文部科学省協力

研究課題	家庭・地域とともにある学校づくりを目指して ～コミュニティ・スクールという仕組みづくり～
テーマ	これからの時代の学校 ～社会総掛かりの教育実現をめざして～
基調講演・ コーディネーター	小西 哲也 氏 兵庫教育大学教職大学院教授・CSマイスター

基調講演者小西哲也氏による「これからの時代の学校～社会総掛かりの教育の実現をめざして～」からコミュニティスクール制度をはじめ学校・地域が連携・協同する社会へ変わっていくPTAは、どう関わるかを話し合われました。



小西哲也氏による基調講演

平成30年度 国内研修事業 in 渡嘉敷村 報告

チーム渡嘉敷と「種時き」が創り出す未来

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立阿蘇青少年交流の家 次長 北見 靖直



「料理」「ウチナークラフト」、さらに「フラダンス」「レクリエーション」などの中でも島の皆さんがメッセージを込めてワークショップを指導いただいたと感じています。地域という言葉はわかりにくいのですが、参加者は渡嘉敷での交流プログラムの中で地域という言葉の意味を深く体感してくれたのではと思っています。

「和加奈がいたから私はがんばれた!」
正面から取り組む沖繩大学生リーダー

和加奈は大学2年、2回目のリーダー。前回、昨年は、初日の渡嘉敷港で、ポロポロと涙を流して中学生たちを迎えたい。「私は中学生にいったい何ができるのか?」という不安に押しつぶされそうになった経験を持っています。今回の事前研修では「昨年の失敗や教訓を活かして、参加者のためにがんばりたい」と意気込みました。初日の班の自己紹介でもしっかりと準備して進行させる姿に頼もしさを感じました。しかし、和加奈の担当した班はなかなか課題の多い班でした。時には正面からガツンと取り組まなければならぬときもありました。

「つながり」を育み続けた5年
多くの方々の支えがあるから!

この事業は3つのつながりて成立しているように思います。まずは「渡嘉敷島のみなさん」とのつながり。渡嘉敷島5年と言います。この間、日本PTAの役員の方が実地踏査や実行委員

「恩返し」の法則を信じて!
地域に愛されたのは地域を愛するひとになる

「地域で育まれたとは必ず地域に恩返しする」ことを私は信じています。逆に地域に愛され、育まれたことがないひとが地域で何かを返そうとは考えないのではないかと思うのです。そういう意味で、本事業はまさに地域の未来づくりにつながっているのです。

1. 実施事業
令和元年度は、青少年の国内交流及び国際交流(定款第4条3項)に基づき、全国の中学2年生男女を対象に国内の青少年施設において、集団宿泊を通して、コミュニケーション能力や他者への理解を高めるとともに、体験活動を通じて社会環境や自然環境への視野を広めるための「研修事業」を行う。
2. 目的
○ 沖縄県、渡嘉敷村の方々との交流を通じて、多様な文化、平和について理解を深め、多くの人々と共に生きていくための資質や能力を育成する。
○ 渡嘉敷村の発展、自然を保護するために活動する人々から学ぶことから、
3. 主 催
公益社団法人日本PTA全国協議会
4. 協 力
独立行政法人 国立青少年教育振興機構、国立沖繩青少年交流の家、沖縄県立糸満青少年の家、渡嘉敷村、渡嘉敷村教育委員会、渡嘉敷小中学校、PTA、渡嘉敷村内住民及び中学生、一般社団法人 沖繩県PTA連合会
5. 後 援
文部科学省(予定)
6. 旅行主催
未定(受注型企画旅行業務契約締結)
7. 実施期間
令和2年3月25日(水)～3月29日(日)
4泊5日
8. 対象者
地方協議会が推薦する中学2年生の男女各1名とする。

豊かな自然と美しく青い海に囲まれた島、多様な文化と平和学習のための史跡など「生の教材」の豊富な沖繩県渡嘉敷島で、本年も全国の中学2年生15名の参加をいただき、平成31年3月27日(水)から31日(日)の4泊5日、「国立沖繩青少年交流の家」を中心に平成30年度日本PTA全国協議会国内研修事業を開催することができました。

つきましては、国内研修事業の指導業務を依頼している、独立行政法人国立青少年教育振興機構、国立阿蘇青少年交流の家、北見靖直次長からの報告を掲載させていただきます。

「大人のできることは何か?」
5年目の成果はチーム渡嘉敷!

国内研修は未来への「種時き」。プログラムが終了し振り返ったときに思ったことです。次の時代を創るために大人ができることはこれだけかも知れません。今回、渡嘉敷村の座間味村長はじめ多くの島の方々、日本PTA役員のみなさん、そして沖繩大学の学生たちと共に力を合わせて、全国各地から参加した中学2年生に「地域」「自然」「仲間」の大切さというメッセージを込めた種を蒔くことができたと感じています。このプログラムに関わったみなさんが中学生たちの未来の可能性を信じてチームになれた!これが渡嘉敷での5年目の成果のように思います。

「料理」「ウチナークラフト」、さらに「フラダンス」「レクリエーション」などの中でも島の皆さんがメッセージを込めてワークショップを指導いただいたと感じています。地域という言葉はわかりにくいのですが、参加者は渡嘉敷での交流プログラムの中で地域という言葉の意味を深く体感してくれたのではと思っています。

「和加奈がいたから私はがんばれた!」
正面から取り組む沖繩大学生リーダー

和加奈は大学2年、2回目のリーダー。前回、昨年は、初日の渡嘉敷港で、ポロポロと涙を流して中学生たちを迎えたい。「私は中学生にいったい何ができるのか?」という不安に押しつぶされそうになった経験を持っています。今回の事前研修では「昨年の失敗や教訓を活かして、参加者のためにがんばりたい」と意気込みました。初日の班の自己紹介でもしっかりと準備して進行させる姿に頼もしさを感じました。しかし、和加奈の担当した班はなかなか課題の多い班でした。時には正面からガツンと取り組まなければならぬときもありました。

「つながり」を育み続けた5年
多くの方々の支えがあるから!

この事業は3つのつながりて成立しているように思います。まずは「渡嘉敷島のみなさん」とのつながり。渡嘉敷島5年と言います。この間、日本PTAの役員の方が実地踏査や実行委員

「恩返し」の法則を信じて!
地域に愛されたのは地域を愛するひとになる

「地域で育まれたとは必ず地域に恩返しする」ことを私は信じています。逆に地域に愛され、育まれたことがないひとが地域で何かを返そうとは考えないのではないかと思うのです。そういう意味で、本事業はまさに地域の未来づくりにつながっているのです。

1. 実施事業
令和元年度は、青少年の国内交流及び国際交流(定款第4条3項)に基づき、全国の中学2年生男女を対象に国内の青少年施設において、集団宿泊を通して、コミュニケーション能力や他者への理解を高めるとともに、体験活動を通じて社会環境や自然環境への視野を広めるための「研修事業」を行う。
2. 目的
○ 沖縄県、渡嘉敷村の方々との交流を通じて、多様な文化、平和について理解を深め、多くの人々と共に生きていくための資質や能力を育成する。
○ 渡嘉敷村の発展、自然を保護するために活動する人々から学ぶことから、
3. 主 催
公益社団法人日本PTA全国協議会
4. 協 力
独立行政法人 国立青少年教育振興機構、国立沖繩青少年交流の家、沖縄県立糸満青少年の家、渡嘉敷村、渡嘉敷村教育委員会、渡嘉敷小中学校、PTA、渡嘉敷村内住民及び中学生、一般社団法人 沖繩県PTA連合会
5. 後 援
文部科学省(予定)
6. 旅行主催
未定(受注型企画旅行業務契約締結)
7. 実施期間
令和2年3月25日(水)～3月29日(日)
4泊5日
8. 対象者
地方協議会が推薦する中学2年生の男女各1名とする。

豊かな自然と美しく青い海に囲まれた島、多様な文化と平和学習のための史跡など「生の教材」の豊富な沖繩県渡嘉敷島で、本年も全国の中学2年生15名の参加をいただき、平成31年3月27日(水)から31日(日)の4泊5日、「国立沖繩青少年交流の家」を中心に平成30年度日本PTA全国協議会国内研修事業を開催することができました。

つきましては、国内研修事業の指導業務を依頼している、独立行政法人国立青少年教育振興機構、国立阿蘇青少年交流の家、北見靖直次長からの報告を掲載させていただきます。

「大人のできることは何か?」
5年目の成果はチーム渡嘉敷!

国内研修は未来への「種時き」。プログラムが終了し振り返ったときに思ったことです。次の時代を創るために大人ができることはこれだけかも知れません。今回、渡嘉敷村の座間味村長はじめ多くの島の方々、日本PTA役員のみなさん、そして沖繩大学の学生たちと共に力を合わせて、全国各地から参加した中学2年生に「地域」「自然」「仲間」の大切さというメッセージを込めた種を蒔くことができたと感じています。このプログラムに関わったみなさんが中学生たちの未来の可能性を信じてチームになれた!これが渡嘉敷での5年目の成果のように思います。

「料理」「ウチナークラフト」、さらに「フラダンス」「レクリエーション」などの中でも島の皆さんがメッセージを込めてワークショップを指導いただいたと感じています。地域という言葉はわかりにくいのですが、参加者は渡嘉敷での交流プログラムの中で地域という言葉の意味を深く体感してくれたのではと思っています。

「和加奈がいたから私はがんばれた!」
正面から取り組む沖繩大学生リーダー

和加奈は大学2年、2回目のリーダー。前回、昨年は、初日の渡嘉敷港で、ポロポロと涙を流して中学生たちを迎えたい。「私は中学生にいったい何ができるのか?」という不安に押しつぶされそうになった経験を持っています。今回の事前研修では「昨年の失敗や教訓を活かして、参加者のためにがんばりたい」と意気込みました。初日の班の自己紹介でもしっかりと準備して進行させる姿に頼もしさを感じました。しかし、和加奈の担当した班はなかなか課題の多い班でした。時には正面からガツンと取り組まなければならぬときもありました。

「つながり」を育み続けた5年
多くの方々の支えがあるから!

この事業は3つのつながりて成立しているように思います。まずは「渡嘉敷島のみなさん」とのつながり。渡嘉敷島5年と言います。この間、日本PTAの役員の方が実地踏査や実行委員

「恩返し」の法則を信じて!
地域に愛されたのは地域を愛するひとになる

「地域で育まれたとは必ず地域に恩返しする」ことを私は信じています。逆に地域に愛され、育まれたことがないひとが地域で何かを返そうとは考えないのではないかと思うのです。そういう意味で、本事業はまさに地域の未来づくりにつながっているのです。

1. 実施事業
令和元年度は、青少年の国内交流及び国際交流(定款第4条3項)に基づき、全国の中学2年生男女を対象に国内の青少年施設において、集団宿泊を通して、コミュニケーション能力や他者への理解を高めるとともに、体験活動を通じて社会環境や自然環境への視野を広めるための「研修事業」を行う。
2. 目的
○ 沖縄県、渡嘉敷村の方々との交流を通じて、多様な文化、平和について理解を深め、多くの人々と共に生きていくための資質や能力を育成する。
○ 渡嘉敷村の発展、自然を保護するために活動する人々から学ぶことから、
3. 主 催
公益社団法人日本PTA全国協議会
4. 協 力
独立行政法人 国立青少年教育振興機構、国立沖繩青少年交流の家、沖縄県立糸満青少年の家、渡嘉敷村、渡嘉敷村教育委員会、渡嘉敷小中学校、PTA、渡嘉敷村内住民及び中学生、一般社団法人 沖繩県PTA連合会
5. 後 援
文部科学省(予定)
6. 旅行主催
未定(受注型企画旅行業務契約締結)
7. 実施期間
令和2年3月25日(水)～3月29日(日)
4泊5日
8. 対象者
地方協議会が推薦する中学2年生の男女各1名とする。

豊かな自然と美しく青い海に囲まれた島、多様な文化と平和学習のための史跡など「生の教材」の豊富な沖繩県渡嘉敷島で、本年も全国の中学2年生15名の参加をいただき、平成31年3月27日(水)から31日(日)の4泊5日、「国立沖繩青少年交流の家」を中心に平成30年度日本PTA全国協議会国内研修事業を開催することができました。

つきましては、国内研修事業の指導業務を依頼している、独立行政法人国立青少年教育振興機構、国立阿蘇青少年交流の家、北見靖直次長からの報告を掲載させていただきます。

「大人のできることは何か?」
5年目の成果はチーム渡嘉敷!

国内研修は未来への「種時き」。プログラムが終了し振り返ったときに思ったことです。次の時代を創るために大人ができることはこれだけかも知れません。今回、渡嘉敷村の座間味村長はじめ多くの島の方々、日本PTA役員のみなさん、そして沖繩大学の学生たちと共に力を合わせて、全国各地から参加した中学2年生に「地域」「自然」「仲間」の大切さというメッセージを込めた種を蒔くことができたと感じています。このプログラムに関わったみなさんが中学生たちの未来の可能性を信じてチームになれた!これが渡嘉敷での5年目の成果のように思います。

「料理」「ウチナークラフト」、さらに「フラダンス」「レクリエーション」などの中でも島の皆さんがメッセージを込めてワークショップを指導いただいたと感じています。地域という言葉はわかりにくいのですが、参加者は渡嘉敷での交流プログラムの中で地域という言葉の意味を深く体感してくれたのではと思っています。

「和加奈がいたから私はがんばれた!」
正面から取り組む沖繩大学生リーダー

和加奈は大学2年、2回目のリーダー。前回、昨年は、初日の渡嘉敷港で、ポロポロと涙を流して中学生たちを迎えたい。「私は中学生にいったい何ができるのか?」という不安に押しつぶされそうになった経験を持っています。今回の事前研修では「昨年の失敗や教訓を活かして、参加者のためにがんばりたい」と意気込みました。初日の班の自己紹介でもしっかりと準備して進行させる姿に頼もしさを感じました。しかし、和加奈の担当した班はなかなか課題の多い班でした。時には正面からガツンと取り組まなければならぬときもありました。

「つながり」を育み続けた5年
多くの方々の支えがあるから!

この事業は3つのつながりて成立しているように思います。まずは「渡嘉敷島のみなさん」とのつながり。渡嘉敷島5年と言います。この間、日本PTAの役員の方が実地踏査や実行委員

「恩返し」の法則を信じて!
地域に愛されたのは地域を愛するひとになる

「地域で育まれたとは必ず地域に恩返しする」ことを私は信じています。逆に地域に愛され、育まれたことがないひとが地域で何かを返そうとは考えないのではないかと思うのです。そういう意味で、本事業はまさに地域の未来づくりにつながっているのです。

1. 実施事業
令和元年度は、青少年の国内交流及び国際交流(定款第4条3項)に基づき、全国の中学2年生男女を対象に国内の青少年施設において、集団宿泊を通して、コミュニケーション能力や他者への理解を高めるとともに、体験活動を通じて社会環境や自然環境への視野を広めるための「研修事業」を行う。
2. 目的
○ 沖縄県、渡嘉敷村の方々との交流を通じて、多様な文化、平和について理解を深め、多くの人々と共に生きていくための資質や能力を育成する。
○ 渡嘉敷村の発展、自然を保護するために活動する人々から学ぶことから、
3. 主 催
公益社団法人日本PTA全国協議会
4. 協 力
独立行政法人 国立青少年教育振興機構、国立沖繩青少年交流の家、沖縄県立糸満青少年の家、渡嘉敷村、渡嘉敷村教育委員会、渡嘉敷小中学校、PTA、渡嘉敷村内住民及び中学生、一般社団法人 沖繩県PTA連合会
5. 後 援
文部科学省(予定)
6. 旅行主催
未定(受注型企画旅行業務契約締結)
7. 実施期間
令和2年3月25日(水)～3月29日(日)
4泊5日
8. 対象者
地方協議会が推薦する中学2年生の男女各1名とする。